

羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職を目指す学生・卒業生のために

COMPASS

第 112 号 2015.12.5(土) 発行

関西外国語大学
教職教育センター

SCET

大きな目的が大きな行動を生む！

関西外国語大学 短期大学部 教授 明石一郎

色鮮やかな紅葉の季節も過ぎ、何かと忙しい年末期を迎えました。教員採用選考試験の結果を踏まえ、当初の目的を達成できた人、来年度に向けて準備を始めている人など、様々かと思いますが、この1年を振り返り、今一度、「自分自身の成果と課題」を総括してほしいと思います。「なぜ教師をめざすのか」という志（夢や目的）を確かにしてほしいのです。

大正から昭和にかけて活躍した吉屋信子という作家が次の俳句を詠んでいます。

～ 金魚売り 買へずに困む 子に優し ～

1945年に戦争が終わった後、日本には親を失った子どもが街中を放浪し、「金魚を買えない貧しい子どもたち」が大勢いました。「買へずに困む子＝貧しい子どもたち」が金魚を見て喜ぶ様に優しい眼差しを送っている金魚売りの姿に共感を覚えます。

優れた教師に共通しているのは、教科指導力の高さと共に子ども理解力が深いことです。教師の仕事のやりがいは、教えることを通して子どもたちの「喜怒哀楽」を共有し、教師も人間として成長する喜びを持つことです。そして、子どもたちの成長していく姿から、無限の可能性を信じることです。中でも、学習に遅れがち子ども、心身に障がいのある子ども、家庭に課題の抱えている子どもたちを中心に学級づくりを進める教師は、教師としての力＝「授業力」・「子ども理解力」・「家庭・地域との連携力」を高めます。

教育者の東井義雄氏は、「子どもは星。みんなそれぞれの光をまばたきしている。やんちゃな子どもはやんちゃな光、おとなしい子どもはおとなしい光、気の早い子どもは気の早い光、ゆっくり屋さん はゆっくりの光など、天（そら）いっぱいの子どもの星を輝かせている」と語っています。

春にタンポポ、秋にコスモスが咲くように、一人ひとりの子どもは「個性」というかけがえのない自分の花を咲かせ、その子どもならではの「彩りと香り」を放ちます。

さあ、もうすぐ新しい年が幕開けです。学生の皆さん！志高く、仲間と共に大きく羽ばたく年になるよう一層励んでください！私たち教職員は、そんな皆さんに支援を惜しみません。

合格体験記

教員採用試験合格者からの喜びの聲が、続々と入っています。喜びの聲をご紹介します。

**山本 茜 さん 大阪府 高校/東京都 中・高 英語科
合格 外国語学部 科目等履修生**

「Winners Never Quite, Quitters Never Win！」

皆さん、こんにちは。私は大阪府・高校英語と東京都・中・高英語に合格することができました。応援してくれた友人、先生方、そして家族のおかげです。本当に感謝しています。

私が教員になることを目指し始めたのは、3回生の冬でした。留学を終え12月末に帰国し、周りの友人は就職活動を始めていた頃に、教員になることを決意し、4月から教職課程を取り始めました。幸いなことに卒業単位はほとんど取り終わっていたため、教職に関する科目、専門科目などを1年間で取り終わることができました。1年間で4年分の科目を履修するため、私の時間割りはいっぱい、しんどい日々が続きましたが、そんな中、私は多くの友人にも恵まれました。途中から教職を取り始めた私に対し、みんな温かく迎えてくれました。

そして、ある友人が教えてくれたことをきっかけに、運よく大阪府教志セミナーに参加することができました。教志セミナーでは多くのことを学ぶことができ、教員採用試験だけでなく、今後役立つことを学べたと思います。

また、卒業後科目等履修生として、4月から自主ゼミという勉強会に参加していました。夜スpegが始まる前から討論の練習のために新聞記事をやったり、英語で話す練習をしたり、意見交換をしました。教育実習後はしばらく勉強が手につかず、実際本格的に教職教養、一般教養を勉強し始めたのは東京の一次選考が終わった後でした。その2週間後に本命の滋賀県での試験が控えていたので、とても焦りながら勉強しました。結局、専門科目の点数が悪く、滋賀県は1次試験で不合格となってしまいました。

私は大阪と東京で合格をもらえたのはみんなで勉強したからだと思います。一人ではなかなか練習できない面接やスピーチ、リーディング、模擬授業の練習をきっちりできたからこそ、不得意な筆記の部分を補えたのではないかと思います。

ただ、皆さんには私のようにぎりぎりまで焦ってほしくないなので、計画的に勉強する時間をきちんと取り、筆記、面接、実技と満点を取る気持ちで臨んでもらいたいです。

たとえば、あなたが周りよりスタートが遅くても決して諦めないでください。

諦めなければ、努力はきっと報われるはずです！！

後藤 壮登 さん

愛知県 中学校 英語科

合格

外国語学部 4年生

「教員採用試験を終えて」

皆さんこんにちは。この度、愛知県教員採用試験において中学校・英語科で合格を頂くことができました後藤壮登と申します。先生方、友人、家族など、様々な人に支えていただいたことに本当に感謝しています。私は、参加してよかったと思う自主ゼミ、夜スペや合宿などでの合同勉強会の2点から書かせていただきます。皆さんの参考になれば幸いです。

まず初めに自主ゼミの活動です。私は秋学期に短期語学留学をしていました。だから、採用試験を意識した対策を始めたのは帰国後でした。勉強を始めたのは良いものの、採用試験についての情報をあまり知らず、何から手を付けたらよいのか分からず混乱していました。そんな時、誘われるままに入った自主ゼミの活動が本当に役立ちました。ゼミでは主に専門教養、一般教養、教職教養、討論に力を注ぎました。集まって勉強することによって、試験へのモチベーションを高めることができただけでなく、お互いに情報交換をすることによって効率よく勉強をすることができました。また、試験が近づくにつれてメンバーが増えたり、他のゼミと合同で学習したりすることによって一緒に勉強する仲間が増え、全員で合格しようという良い環境で勉強をすることができました。

2つ目に夜スペや合宿など、みんなで学習する場に積極的に参加したことです。教職の先生方や現職の先生方のお話を聞いていく中でより一層「教師になりたい」という気持ちが高まり学習に熱が入りました。また、自分の知識を深めるだけではなく、話したことのない人と面接練習をすることにより緊張感のある練習ができたり、同じ愛知県を受験する仲間を見つけ情報交換ができたりと一人ではできないことをすることができました。このような学習の場に積極的に参加していく中で多くの人と出会うことができ、様々な人の考え方を知ることができました。私は面接が苦手であまり話すことができませんでしたが、しかし、これらの勉強会のおかげでいつの間にか面接練習が楽しく思えるようになり、試験本番では自分の教師になりたい熱意をしっかりと伝えられたと思います。

最後に、ここまで自主ゼミ、夜スペや合宿などの勉強会について述べましたが、これらに共通して言えることは私にとって教職の仲間の存在がとても大きかったということです。様々な学習の場を通じて、これからの教員人生の素敵な仲間ができました。人によって勉強方法は異なると思いますが、私は同じ目標をもった仲間と一緒に勉強していくことで最後までモチベーションを維持しながら意欲的に勉強を続けていくことができました。ぜひ、皆さんも多くの仲間をつくり、一人ではなくみんな協力して同じ目標に向かって頑張ってください。

小長 望美 さん

千葉県/大阪府 高校 英語科
合格 外国語学部 4年生

「自分に付加価値を」

英米語学科4年の小長望美です。この度、千葉県と大阪府の高校で合格を頂きました。教員採用試験合格のために留学帰国後からひたすら駆け抜けてきたこの半年の努力が報われたと思うと、胸がいっぱいです。しかし、この結果は決して一人では得られませんでした。先生方や共に高め合った仲間、いつでも相談に乗っていただいたセンターの方々、支えてくれる人がいたからこそ、今の自分があるのだと思います。

私が教員採用試験合格のために大切だったと思うことは主に3つあります。一つ目は、人とつながりあって、「絶対に合格するのだ」という強い気持ちとガッツを持ち続けることです。当たり前のようですが、しかし、実際に試験が近づいてくると不安な気持ちは大なり小なりでてくるのではないかと思います。そういう時は、自分が一人でないことを思い出して、人に相談するのがとても大切です。私は留学の帰国が4月末、それから教育実習やボランティア活動していると時間があつという間に過ぎていき、「本当にこれで間に合うのだろうか、他の人はもっと対策できているのにどうしよう」と非常に焦った時がありました。一人で考えれば考えるほど焦りは強くなり、いっそボランティアをやめようかと思ったこともありました。しかしそんな時に、角野先生をはじめ、教職教育センターのスタッフ、同じように教員採用試験を受けている仲間に相談することで、自分が今何をすべきかを整理できました。そして、「やっていることは合格につながる、大丈夫!!」と強い気持ちを持ちなおすことができました。信念を分かち合える人たちがいれば、人は必ず強くなれます。ガッツを持ち続けないと長い教員採用試験は戦い抜けません。これから教員採用試験を受ける人は、どうか自分が一人だと思わないで、人とつながりあってください。

2つ目に大事だと思うことは、「自分の経験と強み」を研究し、それをいかしていかに教育に貢献できるかを考え続けることだと思います。教員採用試験を受けていて、(どんな面接の形であれ)試験官の方は受験者が教育にどんな信念を持っていて、具体的に何ができるかを知りたがっていると感じました。自分の教育観と強みが整理できていなければ、面接官のこれらの疑問には答えられないでしょう。私は外大版エントリーシートを教員採用試験が終わるまで常に書き続けて、整理することで、面接官からの急な質問にも自分なりの答えを自信を持って言い切ることができました。教員採用試験を受ける方は、必ず外大版エントリーシートを書いて、自分の経験と強みを整理してください。

最後に、英語の教員を目指すからには、英語力を磨き続けることが非常に大切だと思います。また、試験を受けてその英語力を証明できるものを持つことも重要だと思います。私は留学先でTOEICを受験し940点を取得しました。結果、教員採用試験では教職教養や専門教科が免除になり、自分の課題に集中することができました。これから教員採用試験を受ける皆さんも、英語力を磨いて資格を持ち、自分に付加価値をつけてみてください。

北辻 紗衣 さん

大阪府/香川県 英語科

合格 外国語学部 2014年3月卒業

「絶対に諦めない」

皆さん、こんにちは。北辻紗衣といいます。私は3度目の教員採用試験でようやく受かることができました。周りはどんどん受かっていく一方で、おいていかれる自分を感じる2年間でした。自分を見直す機会が2回もあったので結果としてはラッキーだった、と言い聞かせています(笑) さて、せっかく羅針盤を書かせて頂く機会を頂いたので、現在働いている学校で学んだことを書かせて頂きたいと思います。

私は教師になることが、中学3年生からの夢でした。昔から描いてきた夢のために、学生時代は色々な学生ボランティアに積極的に参加してきました。ですから、講師という立場であっても働くことが楽しみでした。幸いながら、今働いている学校では2年間担任をもたせてもらい、毎日が新鮮で楽しい日々を過ごしていました。しかし、一方で、子どもたちと接する中で、自分がしてきたことを活かすことができず、自分がどれだけ学生時代に理想ばかり描いていたのかと痛感しましたし、何もできない自分に、情けなくなったこともあります。学校にもよると思いますが、きっと皆さんもこれから働く中で、そう感じることもあるかと思います。しかし、いくらそう思っても、自分が教師になりたかった気持ちと、子どもへの気持ちを絶対に持ち続けてください。正直心が折れそうになる時もあります。思いを伝えるために、子どもと衝突したこともありますし、ぶつかってから当分の間口を聞いてくれなかったこともあります。でも、そこで諦めてしまったら、その子のためにもならないし、自分はそんな安易な気持ちで教師になりたかったんじゃないと思いました。「もう嫌やなあ」と思うこともきっとあると思います。しかし、どんな時も、子どもに背を向けず、正面から気持ちをぶつけてください。結果はすぐには出ません。でも、絶対に諦めないで、思いをぶつけ続けてください。そんな姿を誰よりも子どもたちが見ているし、きっと何かが起こるはずですよ。

私は、自分が子どものためにしてきた指導が正しかったのかわからなかった時があります。その時に、先輩の先生から言われた言葉があります。「教師っていう仕事に答えなんか無いねん。だから毎日おもしろいねんやん。答えを見つけてしまったら、その時こそ教師って仕事やめる時やと思うで」と。皆さんも私もこれからまだまだ挑戦の時期です。色々試して失敗して学びましょう。成功しても失敗しても、初心を忘れずにいましょう。私も、皆さんに負けないようにまた明日から楽しんで悩んで仕事を頑張ります。最後まで読んで頂きありがとうございました。

登 佳苗 さん 東京都/三重県/大阪府 中学校英語科

合格 国際言語学部 科目等履修生

「3都府県から合格を勝ち取るまでの私の道のり」

平成27年度卒業、科目等履修生の登佳苗と申します。

私の場合、元々、1回生の時から「絶対教師になるんだ！」と思っていませんでした。好奇心旺盛な性格ということから、沢山の職業や分野に興味を持っており、就職活動もしていました。あれやこれやと悩んでいるうちに、単位不足で教員免許をとるために科目等履修生になるか、別の業界へ進むのか本当に悩みました。沢山悩んだ結果、1年間科目等履修生になって、英語教師に絶対なってやる！と決意しました。

もっと前から教師になると決めていた人たちに比べて、ボランティア経験や教育に関する知識は負けていました。しかし、人と比べても自分は自分ですので、私はそれを逆手に取りました。様々なサークルやアルバイト、海外経験（ボランティア・インターン・留学など）を今までしてきたからこそ、自分にしかない幅広い視野や経験がある…と！

私が、教員採用試験にあたり大切にしてきた3つのことを紹介します。

①ONとOFFの切り替え

正直言うと、私は「勉強ばかり」していません。勿論、勉強中心の生活です。しかし、人は集中し続けることは不可能です。普段の勉強の質を上げるためにも、自分のしたいこと（友人と遊ぶ、自分の趣味 etc）を行う時間も大切にしました。遊びの時間を入れることに不安や抵抗を感じる人も中にはいると思いますが、私の場合は、日常の勉強を一切怠らず、これでもかかってくらいやっていたので、抵抗なく、休憩の時間を作ることが出来ました。勉強量（時間）は勿論大切ですが、勉強の質を上げることもすごく大切だと思います。

②支え合える仲間

もし、私が一人で勉強していたら、合格していません。私は主に、サイスペという場へ向かい、西村先生のもと、同じ目標を持つ仲間と共に勉強していました。サイスペに行けば、同じようにみんなも勉強しているので、私ももっと頑張ろうと思えました。多くの仲間のおかげで私のモチベーションが上がり、長期戦に耐え抜くことが出来ました。

③自分の人生の明るい未来を思い描く

私は、何歳になっても夢を持ち続ける人間でありたいと考えています。教採勉強中も、「こんなことがしたい！」「あんなことがしたい！」と自分の未来に期待をよせて、そして、イメージして、そのために今頑張っているんだ とワクワクしていました。

私は、教員採用試験の勉強を沢山することだけが合格への近道だとは思いません。『何事に対しても一生懸命やる姿勢』が大切なのだと思います。そうすることで、あらゆるところから様々なことが学べ、結果的に、戦いの場（ここでは教採）で力になってくる一材料になるからです。前方で述べま

したが、科目等履修生になるまで、教員採用試験に向けて大したことはしていません。しかし、どんな場面でも全てに全力で楽しもうとしていました。勿論、今までの人生の中で、結果が得られなくて沢山泣いて悔しい思いも経験しました。でも、大切なのはその過程。その過程が、後に自分というものを成長させてくれる大きな key だと私は信じています。

合格を頂くことが出来たのは、100%、私だけの力ではありません！！私のことを支えてくれた家族、友人、仲間、先生方…この教採を通して、改めて、『人は一人では生きていくことができない』と感じました。本当に、本当に、ありがとうございました。合格を頂いたことが全てのゴールではないので、私も、これからも夢を持ち続けて突き進んでいくので、皆さんも一緒に皆さん自身の夢や目標に向かって頑張りましょう！

岡田 瑞希 さん

大阪府 小学校

合格

国際言語学部 4年生

「前向きな気持ちで」

皆さん、こんにちは。この度、大阪府の小学校教員採用試験に合格させていただきました。自分の番号があった瞬間は、本当に嬉しかったです。ベッドで飛び跳ねてしまうくらいでした！！3回生の春から4回生の夏まで、本当に頑張ってきて良かったと思えました。合格をいただいた今の気持ちと採用試験に向けての生活についてお話させていただきたいと思います。

まず、感謝の気持ちでいっぱいです。一次試験から二次試験の前日までご指導くださった先生方、同じ夢を叶えるために共に日々努力し、励ましあってきた仲間。そして、夢を叶えるために応援してくれた先輩方や友達、家族。教員採用試験（以下、教採）は一人では乗り越えることはできません。周りの人たちがいるからこそ、“合格”という二文字を掴み取ることができるのです。この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

次に、教採に向けての生活を振り返ってですが、約1年半、すべて教採のために時間を費やしてきました。毎週月・水とあるサイズペに参加し、空き時間は仲間とラーニングコモンズで勉強しました。通学時間の合間、アルバイトまでの時間の間と、すべての時間を勉強に費やしてきました。時には勉強が嫌になり、つらくなる時もありました。でも、前向きに勉強に取り組むことができたのは、自分の勉強の仕方を貫き通したからです。例えば、私の場合は、家では勉強をせずにくつろぐ。遊ぶときは遊ぶ。また、仲間と笑うときは笑いあってきたからです。一緒に頑張る仲間と笑いあうことは、気持ちが落ち着きリラックスでき、頑張ろうという気持ちになります。

これから教採に向けて頑張る後輩の皆さん、合格という言葉は最高の二文字であり、つらかった時を吹っ飛ばしてしまえます。先輩方や先生たちはあなたたちを全力でサポートします。夢に向かって頑張っていってください！！私も、次の夢に向かって頑張ります。

平田 瑞穂 さん

千葉県 中学校 英語科

合格

国際言語学部 4年生

「常に笑顔！常に挑戦！」

皆さん、こんにちは。国際言語学部の平田瑞穂と申します。周りの方々の熱心なご指導、サポートのおかげで千葉県の中学校で合格を頂くことができました。今まで経験してきたことや学んだことを少しでもお伝えできたらなと思います。

① 教師になりたい！

私が教師になろうと思ったのは、たぶん大学1年の秋学期ごろだったと思います。当初はキャビンアテンダントになりたいと思っていました。塾のアルバイトで担当していた生徒の発言は私を教師への道に導く一言でした。中1の英語嫌いの子を担当し、「英語とか全然おもしろくない！」と言われました。この言葉で「この子を英語好きにさせてみせる！教師になる！」と決めました。教師の教え方次第で、英語好きにも嫌いにもできることを知りました。教壇に立ってもっと英語好きを増やしたい！と思い本格的に採用試験に向け、勉強し始めました。

② 採用試験に向けて

前回にも書かせていただきましたが、本当に仲間の存在はとても大きかったです。空いている時間があれば集まって問題を出し合ったり、面接の練習をしたりしました。週2日はサイスペにも行き、先生のアドバイスをもらって高め合いました。まず、勉強し始める前に、仲間を見つけましょう！そのためにサイスペに行きましょう！仲間と勉強していると全然勉強も苦ではなかったし、楽しかったです。みんなで居るときは、自分が学んだことを人に教え、理解できているか確認し、逆に仲間もそれができて知識がすごいスピードで増えていきました。皆さんも仲間で集まって楽しく勉強できる環境を作って下さい。

環境が整ったらさて勉強！私は勉強は時間ではなく、質だと思います。10時間勉強してだらだらしていたら頭には入っていません。私は一日にするページを決めていました。一時間でもみっちりやったらOKです。自分でできる範囲から始めてみてください。

採用試験不安だな、大丈夫かな、と思っている人は多いと思います。まずはサイスペに参加したり、ボランティアに参加したり、行動に移しましょう！人との出会いは人を変えます。人との出会い、関わりを大切に夢に突き進んでください。私も初心を忘れずに現場で頑張っていきます。最後まで読んでいただきありがとうございました。

村田 治子 さん 神奈川県/奈良県/大阪府 中学校
英語科 合格 国際言語学部 4 年生

「大切にしたこと」

皆さん、こんにちは！4 回生の村田 治子です。この文章を「羅針盤」に載せていただけることに私自身驚いています。私のメッセージが少しでも皆さんの励みになり、次のアクションの一助になれば嬉しい限りです。私からは教員採用試験において私が大切にしてきたことを三点伝えたいと思います。

① 自分発見！

私は、たくさんのやりたいことがあって関西外国語大学に来ました。ボランティア活動やインターンシップ、海外渡航、部活動、アルバイト、そして友人と朝まで遊び、語り合うことなど。これらのことを全部やってきて、他の人からは無駄に思えるかもしれないことも、自分にはすべて必要なことだったと思います。何も無駄ではないし、充実したら充実した分だけきっと自分の姿が見えてきます。そして教員採用試験の面接の時に、その「見えてきた自分」を面接官にぶつけてほしいです。

② ON と OFF のバランスを大切に！

教員採用試験が近づいてくると、焦りがどんどん大きくなっていく人もいます。私もその一人でした。特に私の場合、今の時期（11 月頃）は、試験にどんな問題が出るのかもわからず、教職教養のテキストは 1 ページ目から知らない単語ばかり並んでいて、「このままで来年の夏に間に合うのか」とただただ焦りが大きくなるばかりでした。もしかしたら皆さんの中にも去年の私と同じ心境の人がいるかもしれません。

焦ることは決して悪いことではないです。焦りを糧に頑張ろうと思うこともあるからです。一方で焦ってばかりでは夏までに疲れ切ってしまいます。時には息抜きも必要です。友人と出かけたり、昼近くまで寝てみたり、人それぞれの息抜きも必要だと思います。勉強するときはする。息抜きするときはする。しっかりとメリハリを持ち、バランス良く自分をコントロールすることで、自信をもって来年の夏を迎えることができるのではないのでしょうか。

③ 友人、支えてくれる人との繋がりを大切に！

最後に、私が教員採用試験で合格を頂くことができた一番の理由を伝えたいと思います。それは、「友人」と「支えてくれた人」のおかげです。一人では決して最後までこの長い道のりを走り切ることは出来ませんでした。時には不安でくじけそうになった時も、友人が頑張っている姿を見て、「自分も頑張らなくては」と大変励ましてもらいました。そして先生の「みんな大丈夫！受かる！」ということばにも何度も励ましてもらいました。

友人や先生だけでなく、先輩や家族など、皆さんの周りにも支えてくれる人がたくさんいると思います。その人たちとのつながりを大切にしてください。苦しいとき、迷ったときはきっと皆さんを支えてくれます！

「自分の発見」、「ON と OFF のバランス」や「周りの人との繋がりを大切に」、この三つを大切に私は教員採用試験を乗り切りました。皆さんも自分なりの乗り越え方を発見し、残り一年弱の試験勉強をぜひ楽しんで下さい！応援しています！

會津 瑛里果 さん 千葉県 中・高 愛知県 高校

英語科 合格

国際言語学部 4年生

「常に全力、常に努力」

こんにちは。4回生の會津です。今回は私の「教員採用試験への意気込み」を皆さんにお伝えしたいと思います。

私は関西外国語大学に入学する前から教職に強い憧れがありました。しかし、教員採用試験について特に行動を起こしておらず、2回生の春休みに何か始めようと決意しました。

3回生の春学期から西村先生が主催の「サイズペ」に通うことにしました。そこで私が見たのは先輩方の「本気」でした。教職教養はもちろん、面接も堂々としていて来年自分が先輩方のようになれるのかという不安で押しつぶされそうでした。しかし、何から始めればいいのかも分からず、誰にも頼れず1人で抱え込んでいました。

そんな私を助けてくれたのが「仲間」でした。「先輩たちに追いつけるように一緒に勉強しよう」と声をかけてくれ、そこからお互い時間が空いていれば常に勉強をしていました。休日でも勉強をして、おかげで教職教養の勉強が捗ることはもちろん、私にとって仲間が不可欠な存在になりました。また、困ったことがあれば先輩に相談し、たくさんのアドバイスをもらいました。多くの先輩方や西村先生が「仲間がいなければ採用試験は乗り越えられない」とおっしゃっていたのですが、今の私は、心からその言葉に共感します。たまにネガティブになってしまう私を助けてくれたのは、いつも私の傍にいた仲間たちでした。

こうして今日まで頑張ってきたことができました。この1年で自分は大きく変わったと思います。1人で悩んで行き詰ることがなくなったので、考えもポジティブになりました。もちろん、今でも不安に負けそうになるときもありますが、私の周りにはたくさんの仲間がいて、いつでも助けてくれます。西村先生もいつもポジティブな声をかけてくださるので、本当にいい環境に恵まれているのだと思います。

関西外国語大学は「仲間」に出会える機会がたくさんあり、教員採用試験を乗り越えようと思ったなら、ぜひそのチャンスを逃さず活用してほしいと伝えたいです。私はサイズペ、教職合宿、教職英語研修など多くの機会を通して仲間を増やしていけました。

教職英語研修では、オールイングリッシュで授業をして、本当に貴重な体験ができました。また、その中で中宮の仲間と教師に対する思いを語ったり、教職について意欲を高めあえたりしたことも貴重な時間でした。

去年先輩から「常に全力、常に努力」という言葉をいただき、どんなときでもその言葉を忘れず頑張っています。もう教員採用試験は目前に迫っていますが、たくさんの仲間たちと一緒に頑張っています。

みんなで合格を勝ち取りたいです！

松本 壮太 さん	静岡県/大阪府 高校 英語科
合格	国際言語学部 4年生

全ての物事にフルパワーで向き合う

皆さん、こんにちは。国際言語学部4回生の松本壮太と申します。この度は最強のサポート、仲間のおかげで大阪府高等学校英語科の合格を頂きました。周りの皆様に心から感謝しています。将来の事はずっと漠然としたままでしたが、毎日を悔いなく、本気で生きてきました（様々なことにチャレンジしました）。これが合格に至る大切なポイントの一つだったと強く思います。

オーストラリアでの八か月留学から帰国後、西村先生の誘いで、学研都市キャンパスで行われている「サイスペ」（教員採用試験スペシャル講座）に参加させていただきました。その時にはやはり、以前からサイスペに通い続けている同じ4回生との差を凄く感じました。しかし、留学中にやってきた自分の行いは力になってきているし、人と比べても意味がないと思い参加し続けました。

サイスペそこには熱い思い、夢を持った同志が居て、全てが「本気」の世界がありました。非常に魅力を感じ、初めて行ったその日から、自分が行ける日（部活動があったため）は通い、仲間とモチベーションを高め合いながら過ごしてきました。

ここでできたチームワーク、情熱、教師像は間違いなく合格へ近づくためのものだったと確信しています。

教員採用試験は長い道のりです。しかし、熱い思いを持った生徒が関西外大にはたくさんいます。120%支援して頂ける先生がいます。教職生にとってこれ以上ない環境があります。後は、自分の強い気持ち次第です！

「本気」

何になるにせよ、大切なことは情熱、熱意をもって生きるということです。私は17年間サッカーを続けています。（体育会サッカー部）大学でも週6回の部活、ここで得た技術だけでない人間力、3回生の時に行ったオーストラリアでの留学、そこで培った英語力、サッカーを通じたネットワーク力、と全て本気で向き合ってきたから少しずつ自分の力になったんだと思います。

何もしない日々は必ず衰退していきます。時間だけが過ぎても成長はしません。本気で夢と向き合っ、本気で大学生活を過ごしてください！一つ一つのことを「本気」で取り組むから、そこに自然と意味が出てきて、ジグソーパズルでいう一つのピースをGETできるのです。ピースをたくさんかき集めて、自分の大きな「絵」を完成させてください。私もまだまだピースを集めている途中です。「もっともっと」精神でこれからも精進していきます。お互い頑張りましょう！

Get up and fight for what you believe in no matter how hard it is.

ありがとうございました。

先輩からのメッセージ

卒業生の坂上先生から卒業される皆さん、そしてこれから教員採用試験を受験する皆さんへメッセージをいただきました。

坂上 統士 先生

奈良県立大淀高等学校 教諭

国際言語学部 2013年3月卒業

関西外大生の皆さん、こんにちは。奈良県立大淀高等学校の坂上統士と申します。現在、教員になって3年目になります。Time flies.という言葉がありますが、時の経つのは早いもので、つい先日まで大学で教職を志す仲間と一緒に勉強していたように感じます。在学中は多くの先生方と仲間にお世話になり、本当に充実した学生生活を送ることができました。卒業後も、先輩を招いての講演会や教職合宿に呼んでいただき、後輩の皆さんのサポートをすると同時に、私自身も皆さんから元気をもらい、関西外大で学ぶことができたことを本当に幸せと感じています。卒業生として教職を志す皆さんを心より応援しています。

さて、私から皆さんに向けてメッセージがあります。私のこれまでの学生生活と教員生活を通じて感じたことが少しでも皆さんの役に立てば幸いです。

■ 教職を志す皆さんへ・・・

教員採用試験の対策は順調ですか？勉強すればするほど自分の足りないものが見えてきて、くじけそうになることもあると思います。でも、そんな時こそ Positive thinking で、自分が将来教員になって生徒と過ごしているイメージをしながら、一步一步前に進んで下さい。具体的なアドバイスは以前、この羅針盤で書かせていただいたので、そちらを参照して下さい。私の同期のアドバイスも載っているので、ぜひ参考にして下さい。羅針盤の第84号です。

→「羅針盤 関西外大」をインターネットで検索、または以下にアクセスして下さい。

<http://www.kansaiuidai.ac.jp/info/center/education/compass/>

■ 採用試験に合格した皆さんへ・・・(まずは合格おめでとう！)

①英語力に磨きをかける

私が考える英語力には大きく分けて2種類あります。

1つ目は、一般的な英語力です。これは簡単にいうと、外部の試験でのスコアです。

中学校教員で TOEIC 730点 / TOEFL 550点 / 英検準1級、高等学校教員で TOEIC 860点 / TOEFL 600点 / 英検1級の英語力はこれからの英語教員には最低でも必要だと感じています。これについては、もしまだ十分でない人がいれば早く身につけて下さい。医学の知識・技術が不十分な医者に診察させる患者ほど不幸な人はいません。同じように、英語力が不十分な英語の教員に教えられる生徒ほど不幸な人はいません。

2つ目は、英語の教員としての英語力です。これは ① “What’s your favorite subject?” や ②

“What club do you belong to?” といった質問を授業で取り扱った際に、生徒からの「先生、〇〇は英語でどう言うんですか？」という質問に対応できる英語力です。①については古典→Classics、体育→Physical Education(PE)、家庭→Home Economics、②については演劇部→drama club、華道部→flower arrangement club、書道部→calligraphy club といった語彙が必要になってきます。この他にも、例えば教科書本文で「正方形→square」という単語が出てくると、意欲の高い生徒は長方形→rectangle、台形→trapezoid といった単語についても質問してくれます。私は一般的な英語力に比べてこの英語教員としての英語力の強化が十分ではなかったため、1年目は教材研究に苦勞しました。「もし、これらの語彙をあらかじめ身につけていたらもっと色んな活動を考える時間があつたのに…」と何度も思いました。

採用試験に合格して時間的にも精神的にも余裕ができた今こそ、将来を見据えて、上記の英語力の向上に努めて下さい。語学には終わりはありませんが、英語教員として知識や技術は多ければ多いほど良いです。一緒に頑張りましょう！

②教員としての自覚を持つ

皆さんは4月からプロの教員として勤務することになります。つまり、これからは生徒（時には保護者）の手本として働くことになります。生徒と保護者は教員をよく見ています。教科指導が不十分なら、生徒指導も上手くいきません。逆に、生徒指導が不十分なら、教科指導を行う基盤も築くことはできません。ダメなことはダメとしっかり指導してくれる先生に生徒と保護者の信頼は集まります。服装や言葉遣い、授業を受ける姿勢などの基本的な習慣はしっかりと身につかせ、その中で生徒から相談があれば親身になって話を聴き、対応できるようにしっかりと教員としての自覚を持って下さい。

学校でボランティアをしている人はぜひ継続して下さい。まだの人はこれからでも遅くはありません。1日現場に入るだけでも得られることは多いはずですが、生徒指導に関しての書籍を読むのも大変勉強になります。現場で生徒や先輩の先生方から学ぶことの方がもちろん多いですが、悩んだ時に、これまで読んだ教育に関しての書籍の知識が役立ったことも多いです。一緒に頑張りましょう！

■ 最後に

教職という職業は本当にやりがいのある仕事です。まだ、教員になって3年目ですが、毎日そう感じています。こんなに人と関わることの大切さや多くの人の気持ちに気づくことのできる仕事は他にないと思います。教師は非常に大変な職業ですが、その分得られるものも多いです。関西外国語大学の先輩として、皆さんが教員としてご活躍されることを心から願っています。最後に私の好きな言葉を皆さんに紹介したいと思います。このメッセージが皆さんにとって少しでも参考や励ましになれば幸いです。

I am learning all the time. The tombstone will be my diploma.

(私は常に学んでいる。墓石が私の卒業証書だ。)

シリーズ⑫ 「心の窓を少し開いて」

【学級づくり】

学級が荒れる背景には、大きく3つあります。

- 1 教師と子どもに信頼関係がない。
- 2 教師の指導力が不足している。
- 3 子どもの気持ちが汲み取れない。

荒れないクラスの共通点は、

- 1 子どもの内面的な理解を図る。
- 2 分かる授業・楽しい授業づくりをする
- 3 全員、公平に接する。

「ならぬものはならぬ。」という指導

まず「ならぬものはならぬ。」ということ子どもに伝えなければなりません。

授業中に、静かでなく常にだれかがしゃべっている状態。この状態では、がんばりたい子どもも集中力を切らしてしまいます。ひどい時には、教師の上げ足を取りながら、反抗してくる。その状態を傍観している子どもがいる中で教師に対する信頼はだんだん低くなっていきます。やがて、教室は騒乱状態になり教師の指示がまったく届かない状態になっていきます。けれども、その中で頑張っている子どもがいます。一生懸命、ひたむきにがんばっている子どもがいることを忘れてはなりません。

「ならぬものはならぬ！」

授業中にしゃべって、まわりの勉強したい子どもの学習を侵害している子どもに対してはやめさせなくてはなりません。

では、どのように対応すればいいのでしょうか。「しゃべるな」とだけ言っても子どもたちは聞きません。むしろ反発します。大切なのは「なぜ、学習中に私語をしてはいけないのか。その趣意を語る」ことです。

実際の指導

説明 1：最近、先生は困ったことがあります。授業中とてもうるさいのです。

指示 1：授業中に授業とは関係ない話をしたことがある人。正直に手を挙げなさい。

説明 2：ついしゃべってしまうことは誰にでもあることです。先生もつい喋ってしまうことがあります。(少し共感的に話す)

発問 1：でも、授業中にしゃべっていいのでしょうか。

指示 2：いいと思う人。ダメだと思う人。(挙手で確認する。)

(ほとんどみんなダメと手をあげる。中には、手をあげない子どももいる。)

「〇〇さんはしゃべってもいいと思っているのですね。」と聞くと、おずおずと手をあげる人が多い。または、「うん思う。」という子どももいる。

説明 3：ほとんどの子がそう思っているんだよね。

発問 2：何でそう思うの。

「うるさくてじゃまだから。」「集中できないから。」「まわりがしゃべってしまふとついしゃべってしまうから…」
などの意見が出る。

指示 3：では、「そう思うよ」という人。(ほぼ全員が手を挙げる)

説明 4：やっぱりみんなそう思うんだよね。だったら、授業中はしゃべってはダメなんだよね。しゃべってもいいと言う人もいたけど、他の人の迷惑になるのだからだめだよね。迷惑をかけるんだったら、みんな嫌がっているから先生は叱らなくてはいけません。それは、みんなの勉強したい。がんばりたい、という人を大切にしたいからです。人に迷惑をかけるのであれば、それはダメな行動ですから、先生は厳しく叱ります。いいですね。今日一日しっかりと様子をみているからね。もし、先生が何回注意しても聞かないのであれば、おうちの人に電話をしたり、学年の先生とも話をしなければなりません。

ここまで釘をさすと、ある程度の抑止力になります。ただし、これでしゃべらなくなるかということ言えば「否」です。当然しゃべります。その時は「朝、言ったよね。」という一言で、沈静化させることは可能になってきます。大声で、叱らずにすむのです。そうすれば、ほめる場面も増えてきます。そうやって正の循環に変えていきます。

これは、あくまで一つの事例です。基本的に、子どもへの指導は、まちがった行動に対して「ならぬものはならぬ！」と毅然とした指導を続けていくことが大事です。

編集後記———教職教育センターより———

年末といえば・・・やはり大掃除でしょうか。大掃除は、新年を迎える際の年神様への感謝と五穀豊穡祈願のために、家中の煤を払い清めるという意味があるそうです。

先日、テレビのとある情報番組によると、お風呂の蛇口の水垢をとるのにポイントカードなどのプラスチックカードで水垢を削ると良い、そして、掃除機でとれない絨毯の埃は厚でのゴム手袋で掻き出すと良いとのことでした。

今年の大掃除が楽しみです。